

せいしんがい報

2013年1月1日 第95号

注目記事

◆1・2ページ◆年頭の挨拶

救護施設やしおみ荘
〒972-0161 福島県いわき市遠野町上遠野字堀切27
☎(0246) 8 9 - 3 3 3 3 ㊟(0246) 8 9 - 3 3 3 4

グループホーム・ケアホーム レジデンスなごそ

メゾン・ド・あたご、メゾン・ド・ほりきり、コーポおかおな

指定相談事業・地域生活相談室せんとらる
〒979-0145 福島県いわき市小名浜岡小名4-3-1
☎(0246) 3 8 - 3 5 2 0 ㊟(0246) 3 8 - 3 5 2 1

障がい者支援施設ふじみの園
ショートステイほっと
〒972-0252 福島県いわき市遠野町上根本字白坂384-1
☎(0246) 8 9 - 3 4 0 0 ㊟(0246) 8 9 - 3 4 5 4

虹のかけはし
〒971-8101 福島県いわき市小名浜丹波沼61-1
☎(0246) 7 3 - 0 1 1 1 ㊟(0246) 7 3 - 0 1 1 2

ワークセンターしおさい
〒971-8161 福島県いわき市小名浜諏訪町1-10
☎(0246) 7 3 - 2 0 7 7 ㊟(0246) 7 3 - 2 0 7 8

手打ちうどん 天眞庵
〒974-8212 福島県いわき市東田町2-11-7
☎・㊟(0246) 7 7 - 2 0 3 3

ヘルパーステーションあくていぶ
〒979-0145 福島県いわき市勿来町四沢清水17-1
☎(0246) 6 5 - 5 7 0 0 ㊟(0246) 6 5 - 5 7 0 0

放課後等児童デイサービスチャーむ・
地域生活支援事業ウイズ
〒971-8166 福島県いわき市小名浜愛宕上13-23
☎(0246) 7 3 - 2 0 3 3 ㊟(0246) 7 3 - 2 0 3 4

多くの変革の中で 理事長 松崎 有一

多くの皆様に支えていただき、新しい年を無事迎える事ができたことに感謝しながら今年も、一步一步あゆんでいきたいと思えます。

考えてみると、昨年は、大きな出来事があり大変な一年でした。世界では、色々な出来事がありました。特に、米・中・露・韓国などの世界のリーダー交代や欧州債務危機などの大きなニュースが飛び込んできました。

さらに、日本においては、衆議院選挙で自公が政権奪還で新政権の誕生と世界の指導者の交代が軒並みに変化し、今後の世界のうねりが刻々と変化してきています。又、近隣諸国との領有権問題で外交問題も大きな出来事がありました。一方、ロンドン五輪でメダル獲得最多の38個獲得やi P S細胞の山中教授にノーベル賞受賞などの明るい話題もありました。

障害福祉領域に目を移しますと、昨年6月に「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」が成立しました。

①題名は、「障害者自立支援法」を「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」とする。②法の理念などは、保護の対象から権利の主体へ、そして、医学モデルから、社会モデルへの障害概念の転換。③障害の範囲として、慢性疾患に伴う機能障害も対象に。④障害程度区分に代わる支給決定の仕組みの改革。⑤地域生活が可能となるような支援サービス体系の見直し。⑥地域移行の促進。⑦地域生活の基盤整備。⑧利用者負担を応能負担に。⑨相談支援と権利擁護に関すること。⑩報酬と人材確保に関すること等多岐に亘る改革が待ち受けています。このように、法制度改革が本格化してきており、目を離すことができない状況が続きますが、法人経営に関しても大きな影響を受ける可能性がでてくると考えられることから、当法人内改革がもとめられてきている時期と考えます。

ここは、多くの方々のご指導を受けながら役員一丸となり難極乗り越えていきたいと思えますので今年もよろしく願いいたします。

新年を迎えて やしおみ荘 施設長 紺野健一郎

東日本大震災を経て、復旧から復興へと着実に世の中は加速しており、また、いわき市では避難者などの仮の町構想等もあり、今後は特に福祉、医療分野の充足が欠かせない状況下にあります。救護施設にては、支援の機能強化、セーフティーネット機能、地域生活移行支援事業の推進及び充実が求められ将来にわたり、救護施設の期待は高まってきているものと思えます。

このような中で、雇用、経済の低迷等があり全国の生活保護受給者が211万人を超え、過去最多を記録、今後とも継続加速することにかんがみ、救護施設の役割の重大さも増してきております。

また、昨年10月の障害者虐待防止法の施行により、

入所者の人権擁護も強化され支援の質の向上がより顕著になっている状況であります。

さらに、低所得者との均衡のもと生活保護基準の見直しも図られようとしており、効率の良い利用者及び地域社会のニーズに対応した、高いスキルを持った救護施設の運営が必要となってきています。これからは、法人として人材育成を基本とした支援の専門性を高めることも必要不可欠となってきていると思慮されます。

今後とも社会福祉法人の経営理念に添って地域と共生し、質の高い安心感のあるサービス提供に取り組んでいく所でございますので、地域及び関係機関の皆様のご御理解、御協力の程よろしく願いいたします。